
主催者あいさつ



亀井 伸雄（被災文化財等救援委員会 委員長）

皆様、お早うございます。ただ今、ご紹介いただきました亀井でございます。主催者を代表いたしまして、一言ご挨拶申し上げます。

初めに、このたびの東日本大震災から間もなく2年という月日を迎えますが、あらためて亡くなられた方に対して、心より哀悼の意を表するとともに、被災された方々に一刻も早く生活再建の日が来ることをお祈り申し上げたいと思います。

震災発生後、私たちは、文化庁の要請に基づき、多くの文化財や美術関係の団体等が参加して、東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会を結成し、被災した文化財等の救援活動を実施してまいりました。

私たちの活動の任務は、被災した博物館、美術館、資料館、その他の施設、あるいは個人の住宅等から、救援を要する文化財等を緊急に避難させるとともに、損傷した文化財等については応急的な保存措置を施し、安全な場所に運んで保管することにあります。この1年10カ月余りの間、多くの市民や団体、さらには諸外国からの募金、そして参加団体の経費面での負担など、多大な協力もあり、被災県である岩手県、宮城県、福島県、茨城県から要請のあった多くの施設等から、文化財等を救出することができたと思っております。

現在、救出した文化財等は所蔵者に戻るまでの間、民間募金や文化庁の被災ミュージアム再興事業等によって、安全・安定保管のための施設整備、環境整備が図られ、さらには本格的な保存修復が鋭意進められている段階に達しております。

本救援委員会に課された緊急避難と安全な保管という使命は、昨年11月の救援委員会構成団体による全体会合でおおむね終了できる見込みとなったことが確認されましたので、この3月末をもって本委員会は解散する運びになっております。

私たちは過去において、平成7年1月17日の阪神・淡路大震災における被災文化財の救援活動の経験はありますが、今回の震災はそれとも比較にならないほど大規模であり、被災地も広範囲に及んでおります。また、今回救援対象とした動産の文化財等は多種多様であり、参加団体の専門性も多くの分野にわたっています。また、直接、現場で汗をかかれた方、物資調達や各種連絡調整のいわば後方支援に当たった方、運び込まれた文化財等の応急処置等に当たった方など、その参加形態はさまざまです。

こうした方々が一連の活動を通じて意識できた救援活動の課題や展望は、皆様にお配りした昨年度の活動報告書の中に詳しく書かれています。これを読んでも、置かれた立場や専門性によってその内容が異なることが分かります。私たちは、委員会活動としてこれをいったん整理し、今回の活動で得られた教訓等を一過性のものとすることなく、共有し続

けることが重要であると考えております。

そこで今回、救援活動に参加され中心的な役割を担ってこられた方々から、率直な意見を聞く場を設け、記録として残すことにいたしました。

話し合う課題は多岐にわたっておりますので、事前に登壇予定者からのご意見を基に事務局で整理し、項目ごとに議論していただこうと、日を変えながら都合3日間で実施することにしました。各セッションとも発表者が多すぎるかもしれませんが、発表者に対して事前に行ったアンケートの結果もお配りしております。それらを参考に読み比べながら自由に意見交換することで、今回の活動の総括を行いたいと考えています。

最後になりましたが、本日の会に参加された皆様におかれましては、ぜひとも2回目、3回目の討論会にも参加され、本企画が有益な意見交換の場となるようご協力くださいますようお願い申し上げます。開会のご挨拶といたします。よろしくお願いいたします。

(平成25年1月23日 「主催者あいさつ」より)